

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

NRI-JH による血液透析患者の栄養評価と長期生命予後と脆弱骨折との関連についての後ろ向き調査

### 2. 研究責任者(当院)

所属：腎臓内科

氏名：藤井隆之

#### 共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：

### 3. 分担研究者

所属：腎臓内科

氏名：越坂純也、山内伸章、松永宇広、森本真有、田中宏明、寺崎紀子、鈴木 理志

### 4. 研究対象者

2004 年 03 月 01 日～2023 年 3 月 31 日の間に聖隷佐倉市民病院の間に当院で血液透析を開始し外来透析を行い、少なくとも 3 ヶ月以上観察可能であった末期腎不全患者

### 5. 研究の必要性

血液透析患者の粗死亡率は年間 10%程度と高く予後は不良であり、その死因の多くは感染症、心血管合併症である。更に透析患者では一般人と比較して骨折リスクが 4 倍以上高く、骨折後の生命予後、再入院リスクも高いことが報告されている。これらのアウトカムは栄養状態とも密接に関連しており、より早期に栄養状態を評価し適切に対策を検討することが重要である。透析患者の栄養評価には、MNA、MNA-SF、GNRI、SGA などが使用され、その有用性を評価する報告もあるものの、血液透析に特化した評価法ではなく正確性について不明である。最近わが国では本邦の血液透析患者の BMI、アルブミン値、総コレステロール値、クレアチニン値をもとに 1 年後の生命予後のリスク評価を行った NRI-JH の有用性が報告され、生命予後のみならず感染症死を予測することが報告された。

今回、我々は、当院で 2004 年から当院に通院中の血液透析患者に対して、NRI-JH によるリスク評価を行い、長期生命予後や心血管合併症、骨折との関連性について過去のカルテをもとに後ろ向きに検討する。具体的には当施設で通院透析を行っている症例の患者背景、検査データ、治療等のデータをカルテベースで収集し、生命予後、心血管合併症および骨折をアウトカムとして、その関連性を明らかにし、将来的には NRI-JH でのリスクの高い患者さんに積極的に栄養介入、運動療法の介入を行い慢性腎臓病患者の生命予後のみならず健康寿命の延伸につなげられればと考えている。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は後方視的研究であり、参加個人への影響はありませんが、ますます高齢化している透析患者さんの生命予後改善や骨折への対策の一助になることが予想されます。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151

担当者氏名：藤井隆之

対応時間：9：00～17：00

共同研究において専用窓口がある場合

なし